



# 地域

# 子どもたちを

# 育もう!



# kids

## 放たれるからこそ 放課後 である

### 「高砂小学校放課後子ども教室「ジャンプ!」」(埼玉県)

埼玉県草加市では「安心・安  
な居場所」「地域のコミュニ

ティづくり」の2点を主な柱と

して、放課後子ども教室を20

07年4月から展開している。

今回はそのモデル校的位置付け

である高砂小学校に行き、子どもが自由に、自分  
らしくいられる放課後の居場所という取り組みを  
取材した。

(取材・文/小澤 浩)

下校時「こんにちは」「こんにちは!!」と続  
々と大きな声が上がります。中には「今日はジャンプ  
!へ行かないよ! 家にいるからね、池田さん」。  
草加市立高砂小学校に向かう途中で、私たちを案  
内してくれる放課後子ども教室担当の池田景一さ  
んに子どもたちが声をかける。こんな明るい下校  
を見るのは珍しい。

草加市の放課後子ども教室は市のこども未来部  
子ども政策課で運営展開されている。この取り組  
みは07年から開始され、09年6月より高砂小学校  
放課後子ども教室「ジャンプ!」がスタートした。  
ここを利用する児童は1日約100名。平日は毎  
日、長期休業の間(お盆と年末年始を除く)も毎  
日開かれている。まさにモデル校的存在である。  
特に注目するのは「今日一日ここに来て良かった  
なあ、楽しかったなあ、何もなくても良い、あ  
りのままの自分を認めてもらえる居心地の良いみ  
んなの居場所なんだ」ということを子どもたち  
に第一に感じてもらうという方針である。  
早速、校庭に行くと、子どもたちは汗びっしょ  
り、思い思いの場所で遊んでいる。低学年の男子  
2人が中学年の女子数人とダッシュ遊びをしてい  
る。野球もサッカーも異学年同士で盛ん。鉄棒の  
ある砂場は、少し掘ると水が出るため大人気。ド



男子も女子も低学年も一緒に遊び回る



ドッジボールをやりながら野球の場所に侵入!?  
周りで他の遊びをしている子も加わろうとする



ッジボール、鬼ごっこなど男女群れて遊ぶ一方で、一人でいる子どももいる。スタッフはいつもありのままの様子を見守っている。一人でいたい気持ちも尊重するのだ。

ジャンプ!の支援体制も手厚い。PTA、自治会・町内会等の協力で44名の地域住民が登録。1日当たり8〜9名で交代制を敷く。スタッフは場所全体の見守りを担当する児童サポーターと、関わり合い・ふれあいを担当するふれあいアドバイザーがいる。もちろんは指導的なことはしない。

ふれあいアドバイザーの野口和夫さんにそのところを伺った。「子どもたちの遊びたい気持ちに沿って、周りを見ながらやっています。子どもには自分たちで遊ぶルールを決めさせたり、そういうきっかけをそっと仕向ける。上から押し付けるような強制的なことはやりません」。

また、同じくアドバイザーの山本靖江さんは「子どものやりたいことを優先させて

います。そうすると洋服が泥だらけになるからお母さんに怒られるかもしれないけど(笑)」。アドバイザーの渡辺外志子さんも「そうですね、見ていると子どもは外では遊びたいんですね。またやんちゃなこともやりたいんですね。ですからあれもダメこれも危ないからダメではかわいそう」。

さらに、在りたいように在っている、という場が子どもに思わぬ力を与える。昨年不登校を繰り返していた児童がジャンプ!に参加してから登校し始め、現在は毎日出席しているそうである。

もともと子どもはじっとしていないものである。自由な遊びの活動は大人の想像の枠をはるかに超えて心身ともに子どもを成長させる。それには子どもが在りたいように在る場が必要である。そこで子どもが主体的に活動するとどんな体験も失敗も糧となる。時には心を癒して立ち直るきっかけを得ることもあり得る。

子どものさまざまな過ごし方を見守り、生き方を認める。大人が、地域が、子どもの力を改めて信じるところに来ているのではないだろうか。